

東海大学 正員 市川 勉
九州東海大学 正員 星田 義治

1. まえがき. 著者らは、近年、2層帯水層システムからの井戸を用いた揚水による地下水の流動について発表を行なってきた^(1,2)。しかし、これらの中では、初期の飽水頭が上下両帯水層で等しいとされているため、実際には、右めいこの面を持っている。本報告では、上下両帯水層の初期水頭が異なる場合について、実験・解析を行なったので報告する。

2. 式の展開 2層帯水層システムは、(1)不圧-被圧システム(上層が不圧帯水層で下層が被圧帯水層の場合)、(2)被圧-被圧システム(上下両層とも被圧帯水層の場合)の2つのシステムに要約される。これらのシステムの一般図及び諸元を図-1、図-2に示す。図-1、2において、 Q_0 は揚水量、 Q_{su} 、 Q_{sc} 、 Q_{si} 、 Q_{su} は各帯水層から井戸へのしき出し量、 k_u 、 k_c 、 k_i 、 k_u は各帯水層の透水係数、 k_a は漏水層の透水係数、 r_w は井戸の半径、 h_{su} 、 h_{sc} 、 h_{si} 、 h_{su} は各帯水層の井戸内の水位、水頭、 D 、 D_i 、 D_c は各被圧帯水層の層厚、 H_u 、 H_c 、 H_i 、 H_u は各帯水層の揚水前の水位、水頭、 R は涵養半径、 Q_{ru} 、 Q_{rc} 、 Q_{ri} 、 Q_{ru} は井戸の中心から半径 r の円筒を通過する流量、 h_u 、 h_c 、 h_i 、 h_u は井戸の中心から r の地点の各帯水層における水位、水頭、 h_{su} 、 h_{sc} 、 h_{si} 、 h_{su} は各帯水層の井戸縁の水位、水頭、 D_a は漏水層の層厚、 H_a は下部被圧帯水層と漏水層の層厚の和、 Q_{ra} は漏水層を単位幅当たりを鉛直方向に通過する流量である。本報告では、井戸内の水位が上下両帯水層の揚水前の水位より低下して定常状態となる場合を対象とし、次の仮定を用いる。(i)上下両帯水層とも均質等方で、不圧帯水層の流れは筆一樣流であり、ダルシーの法則が成り立つ。(ii)井戸は、下部帯水層底部まで完全に貫入しており、揚水量は一定で、井戸に設けられる吸水孔は連続的に一様に分布している。(iii)上下両帯水層にはさまれている漏水層内の流れは鉛直一次元で、漏水層内からのしき出し現象はない。以上の各々の仮定を用いると、以下の各式が誘導される。不圧-被圧システムについては、井戸における連続の式 $Q_0 = Q_{su} + Q_{sc}$ (1) 井戸縁の抵抗を考慮した運動方程式 $Q_{su} = 2\pi r_w k_u (h_{su} - h_{wu})^{1/2} (2h_{su} + h_{wu})/3$ (2)

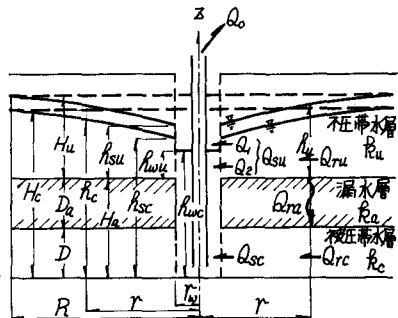


図-1 不圧-被圧システム

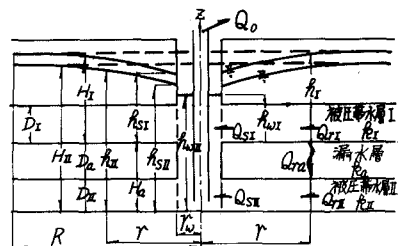


図-2 被圧-被圧システム

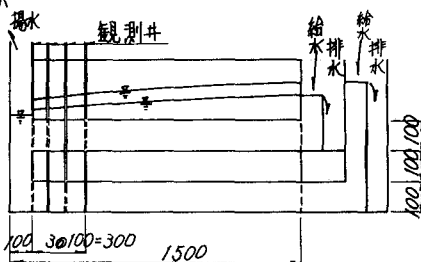


図-3 被圧-被圧モデル

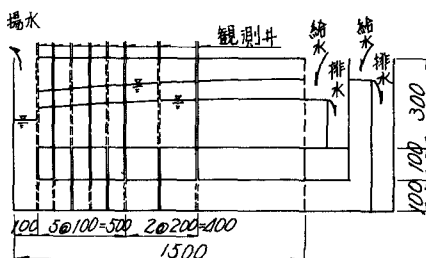


図-4 不圧-被圧モデル

境界条件は、

$$\begin{aligned} r=r_w; Q_0 &= Q_{su} + Q_{sc} = \text{const.}, Q_{su} = 2\pi r_w k_u (h_{su} - h_{wu})^{1/2} (2h_{su} + h_{wu})/3 \\ Q_{sc} &= 2\pi r_w k_c (h_{sc} - h_{wc})^{1/2} \\ r=R; h_u &= H_u, h_c = H_c \end{aligned} \quad (6)$$

となる。被圧-被圧システムについては、同様に、井戸における連

統の式 $Q_0 = Q_{SI} + Q_{SI} \quad (7)$ 井戸枠の抵抗を考慮した運動方程式

$$Q_{SI} = 2\pi r_w K_I D_I (h_{SI} - h_{wI})^{1/2} \quad (8) \quad Q_{SI} = 2\pi r_w K_{II} D_{II} (h_{SI} - h_{wII})^{1/2} \quad (9)$$

漏水を考慮した帯水層内の流動方程式と境界条件

$$\frac{1}{r} \frac{d}{dr} \left(r \frac{dh_I}{dr} \right) = \frac{K_a}{K_I D_I} \frac{h_I + H_a - h_a}{D_a} \quad (10)$$

$$\frac{1}{r} \frac{d}{dr} \left(r \frac{dh_{II}}{dr} \right) = - \frac{K_a}{K_{II} D_{II}} \frac{h_I + H_a - h_a}{D_a} \quad (11)$$

$$\left. \begin{aligned} r=r_w; \quad Q_0 = Q_{SI} + Q_{SI} = \text{const.}, \quad Q_{SI} &= 2\pi r_w K_I D_I (h_{SI} - h_{wI})^{1/2} \\ Q_{SI} &= 2\pi r_w K_{II} D_{II} (h_{SI} - h_{wII})^{1/2} \\ r=R; \quad h_I &= H_I, \quad h_{II} = H_{II} \end{aligned} \right\} \quad (12)$$

となる。上の式を以下の式を用いて無次元化する。 $A_I = r_w^2 / H_I D_a$,

$$B_I = r_w^2 / D_a, \quad g_a = H_a / H_I, \quad g_0 = H_a / D, \quad g_c = R_c / H_c, \quad g_u = R_u / H_u, \quad g_{su} = R_{su} / H_u,$$

$$g_{sc} = R_{sc} / H_c, \quad g_{wu} = R_{wu} / H_u, \quad g_{wc} = R_{wc} / H_c, \quad g_{uc} = H_u / H_c, \quad K_{au} = K_a / K_u, \quad K_{ac} = K_a / K_c,$$

$$R_m = R / r_w, \quad X = r / r_w, \quad Z_0 = Q_0 / 2\pi K_I D_I H_I, \quad Z_u = Q_{ru} / 2\pi K_u H_u^2, \quad Z_c = Q_{rc} / 2\pi K_c D_I H_c,$$

$$Z_{sc} = Q_{sc} / 2\pi K_c D_I H_c, \quad Z_{su} = Q_{su} / 2\pi K_u H_u^2, \quad \alpha_c = r_w K_c / K_c \sqrt{H_c}, \quad \alpha_u = r_w K_u / K_u \sqrt{H_u},$$

$$(1) \text{以上, 不圧-被圧システム}) \quad A_I = r_w^2 / D_I D_a, \quad B_{II} = r_w^2 / D_{II} D_a, \quad D_0 = D_I / D_{II},$$

$$g_I = H_I / H_I, \quad g_{II} = H_{II} / H_{II}, \quad g_I = h_I / H_I, \quad g_{II} = h_{II} / H_{II}, \quad g_{SI} = h_{SI} / H_I, \quad g_{SI} = h_{SI} / H_{II},$$

$$g_{wI} = h_{wI} / H_I, \quad g_{wII} = h_{wII} / H_{II}, \quad K_{aI} = K_a / K_I, \quad K_{aII} = K_a / K_{II}, \quad Z_0 = Q_0 / 2\pi K_I D_I H_I,$$

$$Z_I = Q_{rI} / 2\pi K_I D_I H_I, \quad Z_{II} = Q_{rII} / 2\pi K_{II} D_{II} H_{II}, \quad Z_{SI} = Q_{SI} / 2\pi K_I D_I H_I, \quad Z_{SI} = Q_{SI} / 2\pi K_{II} D_{II} H_{II},$$

$$\alpha_I = r_w K_I / K_I \sqrt{H_I}, \quad \alpha_{II} = r_w K_{II} / K_{II} \sqrt{H_{II}} \quad (以上, 被圧-被圧システム). \quad \text{ここに,}$$

K_u, K_c, K_I, K_{II} は井戸枠の抵抗係数である。以上の式を用いると (4)

~ (6), (10) ~ (12) の式は、以下のようになる。 $\frac{dZ_u}{dX} = \frac{Z_u}{X A_u} \quad , \quad \frac{dZ_c}{dX} = X A_u R_{au} (g_u + g_{au} - g_c / g_c) \quad (13)$

$$\frac{dZ_c}{dX} = \frac{Z_c}{X} \quad , \quad \frac{dZ_c}{dX} = -X B_c R_{ac} (g_u g_{uc} + g_{ac} - g_c) \quad (14)$$

$$X=1; \quad Z_0 = (R_{ac} / R_{au}) g_{uc} g_D Z_{su} + Z_{sc} = \text{const.}, \quad Z_{su} = \alpha_u (g_{su} - g_{wu})^{1/2} (2g_{su} + g_{wu}) / 3, \quad Z_{sc} = \alpha_c (g_{sc} - g_{wc})^{1/2} \quad (15)$$

$$X=R_m; \quad g_u = 1, \quad g_c = 1$$

$$\frac{dZ_I}{dX} = \frac{Z_I}{X}, \quad \frac{dZ_{II}}{dX} = X A_I R_{aI} (g_I + g_{aI} - g_{II} / g) \quad (16) \quad \frac{dZ_{II}}{dX} = \frac{Z_{II}}{X}, \quad \frac{dZ_{II}}{dX} = -X B_{II} R_{aII} (g_I g + g_{aII} - g_{II}) \quad (17)$$

$$X=1; \quad Z_0 = (R_{aII} / R_{aI}) g_D Z_{SI} + Z_{SI} = \text{const.}, \quad Z_{SI} = \alpha_I (g_{SI} - g_{wI})^{1/2}, \quad Z_{SI} = \alpha_{II} (g_{SI} - g_{wII})^{1/2} \quad (18)$$

$$X=R_m; \quad g_I = 1, \quad g_{II} = 1$$

3. 実験および考察 実験は、図-2. に示すような角形水槽を用いて行なう。上、下両帯水層には、

均等係数 1.49、10% 粒径 0.43mm の砂を、漏水層には、豊浦産標準砂を用いた。観測諸量は、揚水量、井戸枠内

の水頭、水頭、帯水層内各位置の水頭、水頭である。給水は、涵養側へ流量計を通して一定供給し、帯水層へ

の注水量は、排水量と供給量の差に等しいとした。解析は、帯水層の諸元及び観測値として揚水量 Q_0 、井戸内の

水頭、水頭 $R_{wI}, R_{wII}, R_{wI}, R_{wII}$ を与え、漏水層の透水係数 R_a 、上部帯水層の透水係数 R_u, R_c 、および帯水層からのし

み出し量 $Z_{su}, Z_{sc}, Z_{SI}, Z_{SI}$ を仮定する。次に、井戸枠の無次元抵抗係数 α と無次元しみ出し量の関係より $\alpha_u, \alpha_c,$

α_I, α_{II} を推定し、不圧-被圧システムでは、(13), (14) を (15) の条件で、被圧-被圧システムでは、(16), (17) を (18) の条件

で数値計算し、この数値計算で得られる無次元しみ出し量と仮定した値とほぼ一致するまでくり返し計算する。

その結果が図-5, 6 である。図を見ると、帯水層内の任意位置の水頭・水頭は、ほぼ評価されているようである。

この方法によると、帯水層からのしみ出し量および透水係数、帯水層の井戸損失を定量的に把握できる。

しかし、図-5, 6 で不圧帯水層の井戸枠外側の水頭が少しずれている。これは、 α - Z の関係を実験式で与え

るため、今後実験を重ねる必要がある。

参考文献

1) 市川・星田・石井 "漏水を考慮した二つの被圧帯水層の井戸の水頭低下の数値解析", 第35回年講, 1980年。2) 市川・星田 "漏水のある二つの被

圧帯水層の井戸の水頭低下の定量的評価について" 第36回年講, 1981。3) 星田市川 "漏水における井戸の評價に関する考察" 土研会論文報告集, 第313号, 1981。

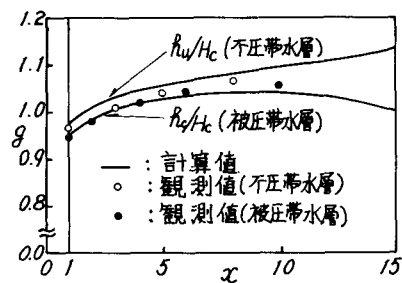


図-5 初期水頭の異なる不圧-被圧システムにおける水頭曲線 (漏水あり)

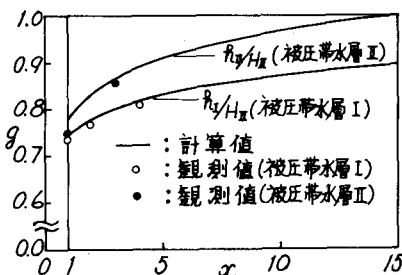


図-6 初期水頭の異なる被圧-被圧システムにおける水頭曲線 (漏水なし)